

令和元年度病害虫発生予報第7号

令和元年10月1日
愛知県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ダイズ	吸実性カメムシ類	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並	±

・留意事項

近年、イネ縞葉枯病の発生がやや多い傾向が続いています。収穫後のひこばえは病原ウイルスを保毒したヒメトビウンカの生息場所になるので、特に、ほ場内で感染株を数か所確認したら水田を耕起し、ひこばえを放置しないようにしましょう。詳細は本日発表の「イネ縞葉枯病情報第2号」を参照してください。

ダイズの吸汁性カメムシ類の発生量は平年並ですが、一部で多く発生しているほ場があります。今年は水田でミナミアオカメムシが多く発生しているため、今後、イネが刈り取られるとダイズほ場へ移動し、加害する可能性があります。ほ場におけるカメムシ類の発生状況をよく確認し、適宜防除を行いましょう。

9月下旬のダイズにおける調査では、ハスモンヨトウとオオタバコガの寄生株率は少ない状況です。県内のほ場に設置したフェロモントラップにおいて、ハスモンヨトウの誘殺数は平年よりも少なく推移しています。また、オオタバコガの誘殺数は西尾市で9月中旬以降やや多くなっていますが、豊田市では平年並、安城市ではやや少なく推移しています。一方、9月26日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みで、これらチョウ目害虫にとって好適な条件が続きます。今後、ほ場において発生量が増加する可能性があるため、ほ場全体を注意して見回り、発生を確認したら、適宜防除を行いましょう。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ナシ	黒星病	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並 10月の降水量はほぼ平年並	± ±
カキ	炭疽病	多い	県全域	9月下旬の発生量は多い 10月の降水量はほぼ平年並	± ±
カキ ウンシュウミカン	カメムシ類	平年並	県全域	予察灯における誘殺数は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 9月下旬のカキにおける被害果率は平年並	± ± ±

・防除対策

〔カキ・炭疽病〕

9月2日発表の「カキ炭疽病情報第1号」を参考に防除しましょう。収穫が始まっているほ場では、収穫前日数や周囲への飛散に注意して散布しましょう。

・留意事項

ナシ黒星病の越冬源を減らすため、落葉処理や秋季防除を実施しましょう。詳細は、本日発表の「ナシ黒星病情報第1号」を参照してください。

ブドウべと病が発生しているほ場では、次作への伝染源量を減らすため、落葉はほ場外に持ち出すなど適切に処分しましょう。

9月26日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば気温が高いと予想されており、果樹カメムシ類の活動が今後も続くおそれがあります。果樹園への飛来状況に注意し、飛来を確認したら収穫前日数に注意して防除しましょう。防除対策は9月2日発表の「果樹カメムシ類情報第4号」を参考にしてください。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ハクサイ	べと病	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並 10月の降水量はほぼ平年並	± ±
	コナガ	やや多い	県全域	9月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	± +
	ハイマダラノメイガ	やや多い	県全域	9月下旬の発生量は平年並 10月の気温は高い	± +
	アブラムシ類	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並	±
キャベツ	黒腐病	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並 10月の降水量はほぼ平年並	± ±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キャベツ	オオタバコガ	平年並	県全域	9月下旬の発生量はやや少ない フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 10月の気温は高い	－ ± ＋
	コナガ	やや多い	県全域	9月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	± ＋
	シロイチモジ ヨトウ	多い	県全域	9月下旬の発生量はやや多い フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 10月の気温は高い	＋ ＋ ＋
	ハイマダラノ メイガ	やや多い	県全域	9月下旬の発生量は平年並 10月の気温は高い	± ＋
トマト (施設)	葉かび病	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並	±
	コナジラミ類	多い	県全域	9月下旬の発生量はやや多い 10月の気温は高い	＋ ＋
	黄化葉巻病	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並	±
イチゴ (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並	±
	炭疽病	多い	県全域	9月下旬の発生量は多い 10月の気温は高い 10月の降水量はほぼ平年並	＋ ＋ ±
	ハダニ類	やや多い	県全域	9月下旬の発生量は平年並 10月の気温は高い	± ＋
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	9月下旬のキャベツにおける発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 10月の気温は高い	± ± ＋

・防除対策

[ハクサイ、キャベツ・コナガ]

アファーム乳剤やスピノエース顆粒水和剤などで防除しましょう。

[ハクサイ、キャベツ・ハイマダラノメイガ]

プレバソンフロアブル5やアニキ乳剤などで防除しましょう。

[キャベツ・シロイチモジヨトウ]

8月2日発表の「令和元年度病害虫発生予察注意報第5号」を参考にしてください。

[トマト・コナジラミ類]

コルト顆粒水和剤やベネビアODなどで防除しましょう。

[イチゴ・炭疽病]

本日発表の「イチゴ炭疽病情報第1号」を参考にしてください。

〔イチゴ・ハダニ類〕

気門封鎖型農薬などで防除しましょう。多発すると防除が難しくなるので、発生初期に防除しましょう。訪花昆虫や天敵を利用する場合は影響日数に注意して薬剤を選定しましょう。

〔野菜類・ハスモンヨトウ〕

野菜類に使用できる薬剤として、BT剤（デルフィン顆粒水和剤など）が登録されています。なお、ハクサイ、キャベツはプレバゾンフロアブル5やアクセルフフロアブルなどで防除しましょう。

・留意事項

オオタバコガのフェロモントラップによる誘殺数はおおむね平年並ですが、田原市のキャベツほ場では多く誘殺されています。結球内部に食入する習性があるため、結球開始前までに防除を徹底することが重要です。発生を確認したら防除しましょう。

台風により植物体の葉や地際部が損傷を受けた場合、その傷口から病原菌が侵入するため、病害が発生しやすくなります。アブラナ科野菜では黒腐病や軟腐病などの細菌による病害や、多湿によってまん延しやすいべと病などの発生量が多くなります。農薬は、植物体に付いた泥を洗い流すように地際部まで丁寧に散布しましょう。害虫による食害痕は細菌による病害の発生を助長するので、害虫の発生がある場合は、殺虫剤も散布しましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	ハスモンヨトウ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
	オオタバコガ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±

・留意事項

オオタバコガは例年、10月に発生量が最も多くなります。着蕾期以降に食害を受けると被害が大きくなるので、早めの防除を心がけましょう。8月2日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参考にしてください。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方气象台9月26日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、高い確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：20% 高い：70%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：30% 多い：40%

〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：30% 多い：30%